

明治期の中学校におけるスポーツ活動

渡 辺 融*

The Nation-Wide Trend of Sports in Middle School in the Meiji Era

by

TOHRU WATANABE*

Abstracts

This study was intended to investigate statistically the nation-wide trend appeared in the foundation and development of student bodies in the public middle schools, the spread of sports in these bodies and the introduction of Western sports into these middle schools in the Meiji era in Japan. The materials chiefly used for this study consisted of Statistical Yearbook of Public Middle Schools of Japan which was published in 1899 and school histories issued by 45 public middle schools.

Results were followings:

1. The middle school student bodies were concentratively established in the period from 1892 to 1901 and in 1898 68.6% of the total public middle schools had their student bodies.
2. The most popular sport activities in the early stage of these student bodies—till about 1901—were such Japanese traditional martial sports as GEKKEN (Japanese fencing) and JUJUTSU (Judo), while baseball, athletic meeting, rowing and tennis were relatively popular among the transplanted sports from the West.
3. The propagations of the above listed four Western sports into the local public middle schools were most remarkable during 5 years from 1893. Baseball was the first one to be propagated into the local schools, next came athletic meeting and rowing, and the last one was tennis.

はじめに

ここ数年来、御雇い外国人教師や居留地外国人スポーツクラブの研究を通して、明治期において外来スポーツが日本へ伝来する様相を考察してきた^{注1)}。そこではさまざまな外来スポーツがお雇い外国人教師や日本人留学生帰朝者によって東京の諸学校に紹介され、定着していったこと、横浜の外国人スポーツクラブもその過程で外的な要因として重要な役割をはたしていたことがうかがわれた。本研究では、これらの外来スポーツが日本全

国へ普及してゆく過程を追究しようとしたものであり、その第一段階として、対象を戦前の日本のスポーツの構造の中で基礎的な部分を占めていた旧制中学校校友会^{注2)}の運動部にしぼり、旧制中学校での校友会の設立と、これら校友会の下に所属する運動部の設置および旧制中学校への外来スポーツの伝播等に関して数量的に把握し、これらの展開過程の全国的な傾向を考察しようとした。

上記の目的のために、明治32年に刊行された「全国公立尋常中学校統計書」(後出I-1参照)所収の校友会^{注3)}に関する調査結果報告および、明

* 東京大学教養学部体育研究室 (Department of Physical Education, College of General Education, University of Tokyo)

治27年以前に創立された公立中学校45校⁴⁾の学校史中の校友会やスポーツに関係した記事を主たる史料として用いた。

第1章では明治31年段階における全国公立中学校の校友会の設置状況(設置率)と、これらの校友会のもとにおかれた運動部の種類および行なわれていたスポーツ種目を明らかにしようとした。つぎに第2章ではこれらの校友会の逐年の設置状況と組織形態の変遷、校友会の発足当初に設置されていた運動部の種類および行なわれていたスポーツ種目に関する全国的傾向を明らかにし、さらに上記の校友会活動で初期から比較的さかんに行なわれていた外来スポーツ種目がこれらの中学校へ伝播された時期に関して全国的な傾向を明らかにしようとした。

明治期の旧制中学校運動部に関する研究としては、地方体育史の観点から、それぞれ広島県、大分県に関して鶴岡英一の「明治期における広島中県学校の校友会運動部について」¹⁾ 平野稔の「大分県における明治体育史の研究——中等学校のスポーツについて——」²⁾ がある。また木下秀明は「わが国における運動部の成立と変遷」³⁾ を書いている。

まず校友会のスポーツ活動の性格に関しては、木下は、中学校の運動部は高等学校や大学のその模倣であり、初期(明治20年代)の運動部は学校全体の生徒数が少なかったために全員参加を建前としてはじまり、中には学校側から正課体育の延長として期待されたものもあったとし、また法的には課外活動の規定はなかったが、学校側はその教育的な必要性を認め、そのような趣旨のもとでは全員がなにかのスポーツを選択できるよう準備されていたとしている⁴⁾。鶴岡もまたこの点に関しては、「中学校運動部は学校当局によって準備された……組織である。」⁵⁾ として、中学校の校友会活動に関する学校側の主導性を認めている。スポーツの展開に関して、平野は「大分県におけるスポーツの発達は中央に比しかなり遅れながらも類似した経過をたどっている。」「西洋スポーツの受容の態勢と環境が整ったのは大分中学校創立(明治18年:筆者注)以降である。」「高等教育機関のない大分県の場合は大分中学校が第五高

等学校(明治20年創立)と呼応し、県下学校スポーツ発展の中心的存在としての重要な役割を果たしていた。」⁶⁾ として、地方のスポーツの発展のために中学校が重要な役割をはたしたことを述べている。鶴岡は、明治期の広島県の中学校においては、メジャースポーツは柔剣道、野球、端艇であったとしている。⁷⁾

以上の先行研究の結果が、全国的傾向にどのような方向性があるであろうか。検討してみたい。

I. 明治31年における全国公立尋常中学校 校友会運動部の実態

1. 全国公立尋常中学校統計書(明治32年刊) について

明治32年1月に「全国公立尋常中学校統計書」(以下統計書と呼ぶことにする:筆者注)という文献が出版されている。内容は、全国の公立尋常中学校に対して、経費、校地面積、級組別生徒数、入学試験、前年度決算、教員数、同月俸額、同受持時間数等のさまざまな面について調査を行ない、その結果を一覧表としてまとめたものである。この文献は国立国会図書館に所蔵されているが、同じ表題のものは前年の明治31年3月にも出されており、同図書館には両年度の分が一括して収められている。奥付によると、31年の分は、編集者三井原仙之助、発行所は開発社であり、和綴本で、非売品となっている。いっぽう32年の分は、編集者は同じ三井原仙之助であるが発行所が富山房で、活版印刷である。この書の発行の経緯に関しては東京府尋常中学校長勝浦弼雄によって書かれた31年本の序文により推察しうるので、これを次にかかげてみよう。「去る明治24年始めて第一高等中学校部内一府七県尋常中学校長の会同を企て、其四月第一次の会同を催せし際、各校の現状を一覧表に製して参照に資せんことを約して印刷頒布せしより爾来其記載事項に多少の修正を施しつつ年に之を調整して頒布し来れり。而るに明治28年より第一高等学校に聯絡を有する尋常中学校漸く増加して昨29年には実に一府十三県十九校の多きに至れり、然れども尚之を全国に及ぼすの有益なるを思ひ本来会同の次この議を提出せしに、